InSPIRE

ソーシャルイノベーション国際教育プログラム（国際連携推進機構プログラム）

1 プログラムのねらい

InSPIREでは、**インド**に進出する県内企業や自治体との連携により、**ソーシャルイノベーション**を軸に、幅広い分野から、**カーボンニュートラル**をめぐる解決策と、その社会実装を探求します。

2 なぜインドか？

インドは、日本の国土の10倍、人口も10倍以上という巨大な国です。14億5000万の人口のうち、15～29歳の若年人口が約３割を占める上、高度なIT人材の存在などでも知られ、毎年６％以上の経済成長率を誇るなど、近年、目覚ましい経済成長を遂げています。
インドは「日本経済にとって次なるフロンティア」とまで言われ（JETROホームページ）、スズキの子会社でもあるマルチ・スズキ・インディアが、南アジア最大の自動車会社に成長するなど、強い親日感情にも支えられて、多くの日系企業の進出が続いています。
また、「インダス文明」に代表されるように、インドには、日本とは異なる文化・文明が広がっているといっても良いでしょう。
ぜひ学生時代にインドを経験して、自身のキャリア像を深化させましょう！

3 プログラムの概要

（1）構成
約２年間、インドの学生と、オンライン共修（オンデマンド含む）を進めるとともに、インドと静岡で現地研修を行うことで、将来の産業高度化を主導する「日印共創人材」を目指します。科目は全て英語で行われます（全12単位以上）。
プログラム修了者には、国際連携推進機構からデジタルバッジが発行されます。

準備科目：
・インドの言語と文化
・グローバル探求演習Ⅰ
他

→ インド現地研修

→ InSPIRE科目
・Social Innovation
・Toward Carbon Neutrality
他

→ 県内研修

→ 日印共同プロジェクト
(国際社会とグローバルリーダー)

→ 修了バッジ

（2）プログラムの特色

① インドでのフィールドワーク：必修

静岡大学国際交流機構が主催する夏のインド研修「ＡＢＰ海外研修Ⅰ（企業・インド）」のほか、日系企業等のインターンシップ（「ＡＢＰ海外研修Ⅲ（その他）」）、インド国内にある交流協定校への留学（「海外交換留学プログラム」）から選んで参加します（重複可。給付奨学金あり）。

② インド学生との県内フィールドワーク：必修

春季に訪問するインドの交流協定校の学生と、静岡県内のフィールドワークに参加し、一緒に日本文化体験や、企業訪問を行います（「多文化共修演習」）。

③ 日印共同プロジェクトの実施：必修

現地や日本で交流を重ねた日本・インド両国の学生が、カーボンニュートラルやソーシャルイノベーションをテーマに、オンラインで、一つのプロジェクトを推進し、共同で最終発表を目指します（「国際社会とグローバルリーダー」）。

4 カリキュラム・開講科目等

（1）修了要件

必要単位数12単位。以下の指定科目から、12単位以上を修得します。

本プログラムの修了には、所定の単位修得のほか、インドへの実渡航を含む「ABP海外研修」または「海外交換留学プログラム」への参加が必須となります。

（2）指定科目表（すべて学際科目）

科目名	区別	学年	単位数
Language and Culture of India (InSPIRE)	必修	1-3	1
Social Innovation (InSPIRE)	必修	1-3	2
Toward Carbon Neutrality: Technologies and the Foundation (InSPIRE)	必修	1-3	2
グローバル探求演習Ⅰ（海外実践活動事前研修）	必修	1-3	1
ABP海外研修Ⅰ（企業） ABP海外研修Ⅲ（その他） 海外交換留学プログラムⅠ 海外交換留学プログラムⅡ	選択必修	1-3	各2
多文化共修演習	必修	1-3	2
国際社会とグローバルリーダー	必修	1-3	2
合　　計			12単位以上

5 履修方法・問い合わせ先

（1）定　　員　１学年15名程度（全ての学部学生が参加可能）

（2）履修要件　TOEIC L&R 550点以上

（2）申請方法

国際連携推進機構が実施するガイダンスに出席し、所定の申請書を国際課（静岡・浜松）へ提出してください。申請者多数の場合は選考があります。

（3）問い合わせ先

静岡大学国際課（InSPIRE担当）：int-inspire@adb.shizuoka.ac.jp

6 派遣先（交換留学協定校）

InSPIREでは、国際連携推進機構が実施する短期間のインド研修のほか、半年～１年間の交換留学を選択することが可能です（奨学金付き）。短期研修に参加した後、交換留学プログラムに申請することもできます。
派遣先大学には、静岡大学との共同研究を進めている教員や、本プログラム推進のためのクロス・アポイントメント教員がいて、静大生の留学生活を後押ししてくれます。

（１）ＳＲＭ科学技術大学（チェンナイ）
SRM Institute of Science and Technology

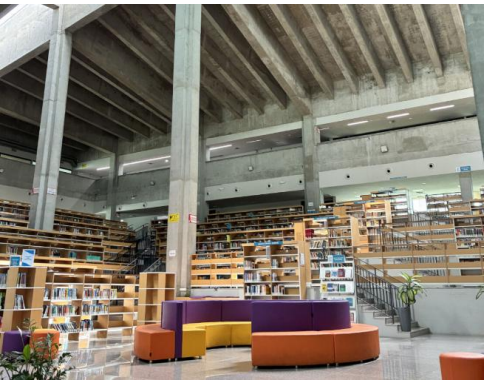
インド南東部チェンナイにあり、研究に重点を置いた総合大学。工学、科学、リベラルアーツを教えていて、インドの私学として最大の規模と高い教育レベルを誇ります。卒業までにJLPT N3レベルを習得する日本語研修「デスティネーション・ジャパン」プログラムもあり、日本人学生にとって過ごしやすい環境にあります。
静岡大学とは2013年に協定締結。以後、学生・教職員の交流を続けていて、2025年には学長が静岡大学を訪問しました。静岡大学を卒業したインドの若手教員も多く、静大の教員が客員教員として訪問することもあります。学生数は約52,000（静大の５倍）。
所在地であるチェンナイは、年間を通して高温多湿。「南インドの玄関口」とも呼ばれ、伝統文化が色濃く残る一方、輸出入の拠点として、多くの日系企業も進出しています。

（２）アンナ大学（チェンナイ）
Anna University

同じく南東部チェンナイに所在する、工学や技術教育で有名な州立大学です。
静岡大学との協定は、インドの大学の中でもっとも古い2007年に締結。以後、工学部を中心に交流を続けており、2023年にも学部長が静岡大学を訪問しています。
学生数は約15,000。日本語学士課程や、１年間の日本語研究の大学院コースもあります。

（3）インド工科大学ハイデラバード校（ハイデラバード）
Indian Institute of Technology Hyderabad / IIT Hyderabad

インド工科大学は「理工学系高等教育機関の最高峰」として、インド全土に23校あり、そのうち日本政府や、各大学の強力な支援を受けて発展しているのが、このインド工科大学ハイデラバード校です。エンジニア系の学部が特に有力ですが、JICAプロジェクトを通じて、各種設備が整備されてきた経緯もあり、リベラル・アーツ学部には、日本語会話基礎や日本語の科目があります。静岡大学とは、博士後期課程でDoctoral Degree Sandwich programを実施しています。
学生数は約5,300。インド工科大学ハイデラバード校とは、浜松市が高度外国人材の誘致に向けた覚書を締結するなど、官民一体となった協力関係が進んでいます。
ハイデラバードは、イスラム文化とヒンドゥー文化が融合する場であり、長い歴史を誇ります。米料理の「ビリヤニ」の本場としても知られています。



（4）カリンガ産業技術大学（ブバネーシュワル）
Kalinga Institute of Industrial Technology University（KIIT）

インドの私立高等教育機関の中で上位にランクインする比較的新しい大学です。
理工系学部のほか、商学・経済学やファッション、映画・メディア、マス・コミュニケーション等の学部もあります。
ブバネーシュワルは、インド東部オリッサ州の州都で、紀元前にも存在したカリンガ国の首都でした。現在も、大小様々な寺院を有する宗教都市としても知られています。

7 滞在先について

いずれの大学でも、キャンパス内に学生寮が完備されていて、三食とも、学生食堂で安価にとることが可能です。大学によっては、キャンパス内を無料バスが巡回しています。また、SRM大学にはキャンパスの病院もあり、万が一の場合でも不安なく過ごせます。市内の移動は、タクシーアプリが使用でき、近くのショッピングモールでは、醤油や豆腐など、日本の食材を購入することも可能です。物価は全体として安く、奨学金を活用することで、快適な現地生活を送ることができるはずです。